

---

# 無声劇

虎刈

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

無声劇

### 【Nコード】

N8322I

### 【作者名】

虎刈

### 【あらすじ】

山奥で倒れていた彼は、家路へと急ぐ。  
まるで、何かに追われるように。

BGMなし、効果音のみを推奨。（もちろん脳内の）

## **(前書き)**

BGMなし、効果音のみを想像しつつ読む事をお勧めいたします。

頬にかかる雨が冷たい。

気が付けば夜の森、それも水溜りまみれの土砂の中にいた。空を見上げても、月明かり一つない雨天だ。

俺はなぜ、こんな山中にいるんだろう。

朦朧とした頭で考えていると、次第に思い出してきた。

そうだ。

確か俺は、崖から足を、滑らせ、て……。

こんなところで寝てる場合じゃない。

早く帰らなきゃ、さゆりも心配する。

俺は歩き出した。ぶらぶらゆれる左腕が邪魔だったが、痛くないので放っておいた。

木の枝に一羽のカラスが止まっていた。

カラスは夜行性だったろうかと思いつつ、俺は下山を急いだ。

~~~~~

どれほど歩いたのだろう。随分歩いたつもりだが。依然、雨は降り続けている。

ああ、早く家に帰らねば。

帰って、さゆりを安心させてやりたい。それに俺も、あいつの笑顔を見たい。

そう思ったら、少し元気が出てきた。

大丈夫、まだ歩ける。

疲れは、全然ない。

ふと視線を感じて、顔を上げた。

木の枝に、またカラスが止まっていた。

薄気味悪いものを感じたが、特に何もしてこないので無視する事にした。

~~~~~

雨が小雨になってきた。

いかん、急がねば。

なぜか、そう思った。

知らず、俺の足は走り出す。

走れば、きつと間に合う。

——何に？

俺は何に追われているのだろう。

理由すら分からず、本能的に俺は駆けている。

俺はひたすら走り続けた。

走っても走っても疲れないので、また走った。

自分でもちよつと信じられなかったが、少しでも早く帰れるならいいかと思った。

追われるように、俺は一目散に自宅を目指した。

カラスが俺の上を旋回していたが、それどころではない。

~~~~~

そしてついに、俺は懐かしの我が家の前に辿り着いた。

夜はもうすぐ明け、雨は止もうとしている。

間に合った。

——何に？

そんな事はどうでもいい。

ふと湧き上がった疑問を頭の片隅に押しつけ、俺は自宅のチャイムを鳴らした。

鍵を持ってないのだから仕方ない。

この時間帯は寝ているだろうと思ったが、ガラス越しに電気が点いた。

よかった、さゆりは起きたようだ。

さゆりがドア向こうに来たのが分かる。

いきなり帰ったから、あいつは驚くだろう。

そして安心させてやるんだ。

ただいま、と。

そう思い、俺はようやく帰ってこれたんだなと実感した。

ドアが開き、さゆりが顔を出した。

そしてさゆりは

信じられない物を見たという顔で後ずさった。

さゆりが動いた先には、玄関に立てておいた姿見がある。  
そこに俺の全身が映り、それを見て俺も驚愕した。

俺はメチャクチャだった。

表皮はとくに剥げあちこち骨を覗かせ

頭は潰れ鼻はもげ目は腐り落ち

長距離を走ってきたので足の筋肉もずたずただった。

俺は何か言おうとした。

しかし、言えなかった。

顔の筋肉が動かなかったからだ。

それ以上に、もう指一本動けなかった。

雨はもう、止んでいたのだ。

恐怖に歪んだ表情で、俺を見るさゆり。

やめろ、俺はお前にそんな顔をさせたいんじゃない。

動けぬ俺の上に、カラスが止まった。

そして一声、かあと鳴いた。

俺の体が散っていく。桜吹雪のように散り散りと。

終わったのか。それでいい。

そういえば、カラスは死に惹かれると聞いた事がある。  
道理で。



## （後書き）

モチーフはシューベルトの「魔王」。タグの魔王とはそういう意味で。

あちらが歌曲バリバリなので、こちらは無声でチャレンジ。「声」を出すのは鴉のみというデザインでした。

設定としては、男性はふと蘇っちゃったゾンビ、雨が降ってる間だけ動けるとかそんな。

元ネタが歌曲なもので、色々と抽象的ですな。

ご意見、ご感想などございましたらお待ちしております。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n8322i/>

---

無声劇

2010年10月10日21時23分発行